東日本大震災　MSW 災害支援ニュース

JASWHS　公益社団法人　日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 28 年 8 月 10 日　第 6 巻（第 4 号）

発行：東京都新宿区住吉町 8–20 四谷チンゴビル 2F
災害支援チーム　TEL (03)3351-5038
FAX (03)5366-1058
Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

1．　熊本地震・益城町総合体育館での支援活動を終えて
2．　熊本地震・益城町での災害支援活動に参加して（Ⅰ）
3．　大阪での活動報告を終えて
4．　活動報告
5．　災害支援チームからのお知らせ
6．　災害支援ニュース発行のお知らせ
7．　あとがき

熊本地震で被災されたみなさま
心よりお見舞い申し上げます
復興への道のりがより短くなるよう
祈念いたします

1．熊本地震・益城町総合体育館での支援活動を終えて

∝∝∝∝∝∝∝∝∝∝

期間　平成 28 年 5 月 26 日　～　29 日

∝∝∝∝∝∝∝∝∝∝

災害支援チーム
東　妙香

平成 28 年 5 月 26 日～29 日まで益城町総合体育館で活動を行いました。

私が活動した時期は、震災で崩落したアリーナ、サブアリーナの天井板が修復され、そこに間仕切りが設置され、体育館の廊下や体育館の外でテント生活をしていた方たちが「一人あたり 1.5 区画」と決められた広さで割り当てられたスペースへ徐々に転入してくる時期でした。

体育館では、1 日 2 回 JMAT が医療支援の巡回を行っていました。私はその巡回に同行し、日々変わる JMAT の医師に（場合によっては午前と午後で異なるチームが来ることもある）前回の巡回の状況（どの方からどのような訴えがあったか、その時の様子など）を報告したり、夜間対応する看護師と巡回の内容を情報共有するなど、継続した診療や観察ができるように支援しました。数日続けて巡回していると、いつ巡回しても横になって過ごしている高齢者の方もいることも分かりました。その方たちは、廊下や武道場などオープンスペースにいらっしゃる方だったので、「食事は摂れているのか」「体調は問題ないか」などのちょっとした声掛けもしやすく、様子が観察しやすい状況にありました。そのため、生活不活発病が進行していく可能性があることを他職種とも情報共有し観察を継続することが可能でした。しかし、新しくアリーナに転入された方々は、間仕切りによりプライバシーを確保できる反面、その中で何が起こっているのかが見えづらく、（支援者側からすると）問題が発見しにくくなるという新たな課題が出てきていたように思います。

また、食事も朝おにぎり、昼パン、夜コンビニのお弁当（1 種類のみ）であり、栄養に偏りがあることに加え、味に飽き残してしまう方も出てきており、喫食量や食思の低下による健康面への影響が危惧されていました。しかし、それらも配給された食事を自らの部屋（間仕切りの中）に持って行ってしまえば、残されていてもわからない状況にありました。

だからといって、廊下などのオープンスペースでの生活が良いわけではもちろんありません。人々の尊厳や生活を守りながら、でも、必要な方に必要な支援が行き届くためにどうすればよいか。環境を整えたりシステムを構築すること、間仕切りの外に出てきている時の避難者をよく観察し、その様子から閉鎖された空間で起こりうるかもしれない課題を考え、予防的に介入をしていくことなどなど。それらの実現には他機関、他職種との協働が重要であることを改めて感じました。

そしてそれらの支援は被災地の特別なものではなく、日常の支援と変わりないものであることに今回の活動を通じて気づくことができました。

2. 熊本地震・益城町の災害支援活動に参加して（Ⅰ）

期間　2016年7月2日　～　7月11日

災害支援チーム
石巻現地責任者　　福井　康江

一. 熊本に降り立つ

機内アナウンスが着陸間近であることを告げる。窓からの景色は、パッチワークを繋げたような美しい田園風景が広がる。しかし間もなく、家々を覆うブルーシートの景色にこの美しい土地との違和感を感じることとなった。視線を動かすと、濃い緑の阿蘇の山々には巨人が手で掻いたように筋になった土色の土砂の崩れの後が見える。　やはりここが被災地であることを、機上から覚悟をすることとなった。

熊本空港から、リムジンバスで熊本市内へ向かう。降車した市内の中心地は、予想以上に賑わっていたが、すぐ近くに崩れた熊本城を見る事ができ、日々目にする情景に人々の思いを察した。

（熊本市の繁華街と熊本城）

二、避難所に入る

現地支援第１日。本協会事務局の坪田氏と熊本市内から益城町役場に向かう。益城町に近づくにつれ、道路の歪みやり災した家屋が増してくる。当地特有の瓦屋根の重みで、そ

のまま 2 階部分から崩れてしまった家々が目立つ。その屋根の下には、人の生活が流れていたのであろうことに思いを馳せる。無事でいてくれただろうか。

道路近くまで倒れ掛けている家屋もあり、走りながら少なからず緊張が走る。地震から3ヶ月近く経ち、明らかに建物の傷みは進んでいる。解体作業が進んでいないことが気になった。

坪田氏より、益城町役場自体も被災しているので通常に使用できていないことを伺う。仮の出入り口となっている通用口から役場の建物内に入り、物資や荷物などが置かれた通路や待合スペースを抜け、避難所対策チーム本部のあるフロアーへ向かう。そこで、坪田氏より、姫野保健師を紹介いただく。姫野保健師は震災直後より第一線で被災者支援を担ってこられ、本協会の支援活動にもご尽力いただいた方であった。

姫野保健師より、「（避難所となっている）保健福祉センターにいる避難者の方々に今後の意向調査をして、集計が済んだところ。避難所退所後の生活の場が不明な方がいるのでその方たちのフォロー面接と支援をお願いしたい。」との依頼を受ける。

「これから、その支援を必要な方の事をよく知っている DCAT の方と（避難所になっている）総合体育館でお会いするので、一緒に会って欲しい。」との話になり、総合体育館に向うことになった。

総合体育館の避難所は、承知の通り１ヵ月前より本協会員の方々が支援活動に入っている所であり、当日活動に携わられている協会員の方々に挨拶と見学を兼ねて伺わせていただき、熊本 DCAT チームの方とも情報交換をすることができた。総合体育館では、廊下に寝泊まりをされている方もおられたが、段ボールベットも多く利用されており、部屋毎に機能を考慮された環境づくりがなされていた。何よりも、衛生管理に気を配られていたのが印象的であった。空調も整い、臭いなども気になる事もなかった。蚊の調査等も関係団体が実施していた。続く震災の経験を経て、多くの方々の努力や英知の尊さをしみじみと感じた。また、総合体育館で活動をされていた本協会会員の方々は、熊本県内の福祉関係の職能団体が開設した「生活総合相談窓口」や、総合体育館を担当している保健・看護チームとも連携を取り、毎日情報交換をしていることも伺った。

（総合体育館避難所：坂茂建築設計 HP より）

総合体育館から車で約５分移動し、これから主な支援活動場所となる、益城町保健福祉センター（通称：はぴねす）へ入る。

保健福祉センターには、約１５０名の方が避難されていた。児童館と一緒になっている建物のため、センター内は上履きを履かず素足で移動するようになっており、壁など所々に子どもに好まれそうな装飾が見て取れた。廊下にも避難されている方が複数おられたが、木目を生かした廊下や室内に優しい印象を受けた。支援団体がセンター内の清掃を行っており、空調も程よく、気になるような臭いは感じなかった。玄関前ではやはり支援団体がペットの世話を行っていた。炊き出しのスペースやテントが設置されていた。建物の横のスペースには、３世帯の方が屋外で生活をしておられた。

保健福祉センター担当の DCAT の方にお会いし、退去先未定の対象者の方の情報をいただく。その後、２名の方にお会いすることができ、第一日目の活動を終了した。

（次号へつづく）

3. 大阪での活動報告を終えて

災害支援チーム
石巻現地副責任者　　畑中　良子

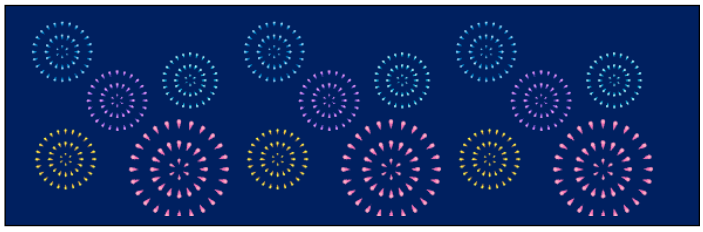
７月 10 日、大阪の泉州地区で行っている勉強会で東日本大震災から 5 年を迎えた石巻での支援活動と熊本地震での現地活動について報告をさせていただきました。

関西で生活していると東日本大震災のその後の被災地の現状について知る機会が極めて少ないように思います。遠く離れた石巻での活動を伝える事は、これから起こりうるかもしれない災害に対して個人として出来る事、組織として出来る事、職種として出来る事を考え、実行してもらえたら、と強く思いました。

発災後の避難所から仮設住宅、仮設住宅からの復興住宅等への移行と住民の生活の場が変化していく中で、外部支援者がどのように地域の支援者・支援組織と支援体制を作っていくのか、地域の文化を知る必要性、支援者のサポート、個別支援について話をさせていただきました。

「被災地での支援といっても特別な事ではなく、通常の MSW 業務と変わらない」という感想をいただきました。個別支援だけでなく、集団へのアプローチ、地域に出向いてのネットワーク作りや他機関・他職種にソーシャルワーカーの理解を進める活動は本来、病院で勤務する MSW が行っていた事です。震災支援は特殊な環境で行うことかもしれないが、「特別」でもなく、「すごいこと」でもなく、「よそごと」でもない、という事が理解できたという感想を持ってもらえた事は今回の成果だと感じています。

4. 活動報告



石巻ロイヤル病院（宮城県）
春山　瑞生
活動期間：2016 年 7 月 20 日

今回の男のあそぼう会は、季節感のある料理「そうめん」と一人ではなかなか作ることはないような料理「筑前煮」を作ろうという会でした。今回は石巻市内にある施設の調理室に現地集合ということでしたが、約束の時間になってもなかなかメンバーが揃いません。協力員ながら「どうしたものかなぁ…」と思っていましたが、遅れてきたメンバーさん達はそれぞれ後ろめたさ等感じさせず、「おう！」などと気軽なあいさつをされていました。すでに来ていたメンバーさん達もそれに気軽に応えられており、私は「この感じが今の会のスタイルなのかもしれないなぁ…」とも思いました。

良い意味でゆったりと始まった調理ですが、メンバーたちは自然とできた役割の中でそれぞれ活躍しているように感じました。またあまり積極的に皆と活動できず、いつも現地員・協力員とお話しするメンバーさんに、その方ができそうな作業をお願いしてみたところ「おれしたことないんだ。」と言うものの、笑顔を見せながら、自分の身の内話をしながら作業してくれたことはとても印象深かったです。

出来上がった料理も本当においしく、日頃なかなか取れない根菜等の栄養も頂くことができました。また食べ終わった後の次回の活動内容について話し合いの時も、普段あまり話に混ざらなかったメンバーさんが提案したり話したりしている様子を見ることが出来ました。

支援者がクライエントに介入する際の度合いについて、日ごろの業務でも迷う時があります。しかし本人が出来ることに関してはちょっと手を貸すだけ、ただ横にいるだけ、そして見守るだけでも一つの支援の形なのかなと思いました。

被災地の環境が刻々と変化していく中で、メンバーさんの生活が変化していっております。グループの中でもメンバーさん同士のやり取りが変化していく様子を観察させていただいておりますが、それにより日ごろの業務も振り返る機会があります。ご一緒に参加してみませんか？

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

5. 災害支援チームからのお知らせ

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

【1. 協力員募集】

現　　地

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆　引き続き以下の内容にて募集いたしますので、ご協力下さい。　☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

現在、１日にあたり上限２から３名で募集しております。
現地までの旅費・交通費は自己負担をお願い致します。
活動日程つきましては下記のようにお願い致します。

期　間：　平日３日以上　、
受入日：　期間を満たす曜日　　（土、日、祝日は活動致しません。）

但し、上記以外であれば支援活動が可能な場合は現地担当までご相談ください。

※　出発２日前までには（到着時刻等を含めて）は必ず現地担当にご連絡ください。

今後、活動に参加される方でその年度初回参加時には、簡単な資料を郵送致します。
ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

事　務　所

引き続き募集しております。
平日のみの活動ですが１～２ヶ月に１回でも構いません。
ご協力お願い致します。

【2. 災害支援チーム会議開催のお知らせ】

次回会議日程
９月　調整中
時間＝19：00～21：00　　場所＝於協会会議室

【3. 書籍販売】

『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』の
販売を行っています！

発災から 2011 年９月３０日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年１２月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、2013 年１月から 2014 年３月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせて頂きます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

（注文用紙はホームページからダウンロードできます）

バトンⅠ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

バトンⅢ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

【4. facebook】

facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いいたします。

URL

http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL

http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be

6. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定　８月下旬予定

7. あとがき

災害支援チーム事務局から

編集担当　金子

熊本地震発生から３か月が過ぎました。多忙な SW のみなさまの支援活動に少しばかり手伝いをさせていただきました。また、石巻からも７月は福井さん、岡村さんがそれぞれ支援活動に参加・協力し、熊本災害対策本部メンバーでもある坪田さんも益城町現地にてもろもろの支援活動をしてきました。

これから益城町現地では、住宅をなくした方々が仮設住宅への申込み・抽選・入居と続く日々を過ごすことになります。石巻と同様に SW の支援が必要な状況が今後も続くことを思い、SW の存在が益城町で浸透することを願います。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 28 年 8 月 10 日第 6 巻（第 4 号）
作成　日本医療社会福祉協会
災害支援チーム事務局